

# 原子炉実験所だより

## 目 次

|                               |    |
|-------------------------------|----|
| 1. 所長就任に際して（前田 豊）             | 1  |
| 2. 平成7年度共同利用研究（追加申請）の提出期限について | 2  |
| 3. 平成7年度ワークショップ、専門研究会の審査結果    | 2  |
| 4. 平成7年度臨界集合体実験装置共同利用研究の審査結果  | 4  |
| 5. 平成6年度原子炉実験所将来計画短期研究会報告     | 6  |
| 6. 平成7年度の一般公開について             | 8  |
| 7. 原子炉実験所の平成6年度出版物について        | 9  |
| 8. 外来者証の様式変更について              | 11 |
| 9. 外国人研究員の受入れについて             | 12 |
| 10. 外国人研究者講演会報告               | 12 |
| 11. 日本原子力学会賞の受賞について           | 12 |
| 12. 教官公募について                  | 13 |
| 13. 原子炉実験所審議員名簿               | 15 |
| 14. 原子炉実験所運営委員会委員名簿           | 16 |
| 15. 原子炉実験所各種委員会委員名簿           | 17 |
| 16. 職員の異動                     | 19 |
| 17. 委員会メモ（平成7年2月～7年4月）        | 20 |
| 編集後記                          | 22 |

## 1. 所長就任に際して

所長 前田 豊

所長就任にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

ご承知のように、原子炉実験所はこの4月より“卓越した研究拠点（センター・オブ・エクセレンス：COE）”をめざして新たな一步を踏み出すことになりました。平成5年7月の学術審議会報告「大学における研究用原子炉の在り方について」を受けて、KURの位置付け、役割及び今後の取扱い、組織運営の在り方について、関係各位の貴重なご意見等を参考に検討を進め、その結果を「京都大学原子炉実験所の整備（案）」として取りまとめ、平成6年6月学術審議会特定研究領域推進分科会原子力部会に報告し、了承を得るとともに、この線に沿った概算要求を提出しておりました。この整備（案）では、KURの健全性を確保するための整備を行った上で、これを用いて行う特徴のある研究を中心として完遂し、その発展と核融合までも視野にいたした核エネルギーの新利用方式に関連した原子核エネルギーの分野と放射線・粒子線の高度利用の分野の新しい研究動向に対応することになっています。このための研究組織の再編成が平成7年度認められ、それにとまなう運営の見直しの検討が鋭意進められているところであります。また、KUR及び附属共同利用実験設備の特別整備計画（5ヵ年計画）もスタートすることになります。

このような重要な時期に所長を拝命し、その責任の重さを痛切に感じております。今回の実験所の整備に当たっては、施設管理における安全性と信頼性の確保を最優先することを基本方針の第一に致しておりましたが、さきの兵庫県南部地震のこともあり、まず施設の安全対策に万全を期すことが所長に与えられた最大の責務であると考えております。次に、KURに適した重点的研究を推進して国際的に高い水準の研究を推進し得る体制を構築し、萌芽的・先駆的研究に対応できる研究拠点にすることが重要な任務であります。今年度より文部省ではCOE形成プログラムが予算化されました。共同利用機関である原子炉実験所は、既にCOEであって当然ということで、この中核的研究機関支援プログラムの対象となっております。昨年はノーベル物理学賞が中性子散乱技術の開発に先駆的貢献をされたBrockhouse博士とShull博士に与えられ、中性子利用に関係する研究者として喜ぶとともに大きな責任を感じました。今年はレントゲンがX線を発見して100年を数えますが、中性子は発見後63年であります。今日のX線利用の姿を考えると、まだまだ中性子利用の発展に期待されるところは大きいと考えております。

微力ではございますが、原子炉実験所が名実ともに我国の原子力基礎研究のCOEとなるよう道を探りたいと思いますので、宜しくご指導下さいますようお願い申し上げます。

## 2. 平成7年度共同利用研究（追加申請）

### の提出期限について

平成7年度の共同利用研究は、すでに公募採択済みですが、特に希望のある場合は下半期だけの「通常採択」について追加申請を受付けております。申請書類の提出期限及び送付先は次のとおりとなっておりますので、十分ご留意願います。

提出期限：イ）共同利用研究〔ロ）を除く〕

平成7年6月9日（金）

ロ）臨界集合体実験装置（附設中性子発生装置を含む。）

共同利用研究

平成7年7月28日（金）

送付先：郵便番号 590-04

大阪府泉南郡熊取町野田

京都大学原子炉実験所

共同利用掛

（封筒の表に「申請書在中」と朱記して下さい。）

なお郵送の場合は必ず「書留便」にして下さい。）

## 3. 平成7年度ワークショップ、専門研究会の審査結果

運営委員会において申請のあったワークショップ6件、専門研究会16件を審査の結果、ワークショップ、専門研究会ともに全件が採択されました。

平成7年度ワークショップ採択一覧

| ワークショップ名              | 申請者             | 開催責任者           |              |
|-----------------------|-----------------|-----------------|--------------|
|                       |                 | 所 外             | 所 内          |
| 精密制御材料照射装置の開発・設置と応用   | 広 大 工 教 授 下村 義治 | 九大応力研 教 授 吉田 直亮 | 義家敏正         |
| 原子力工学専攻大学院生の実験教育の将来構想 | 京大原子炉 教 授 西原 英晃 | 九 大 工 教 授 工藤 和彦 | 西原英晃         |
| 同位体の製造と高度利用           | 金沢大理 教 授 坂本 浩   | 金沢大理 教 授 坂本 浩   | 小林慎江<br>森山裕文 |
| 生物照射用低エネルギー単色中性子場の開発  | 京大原子炉 教 授 内海 博司 | 京大放生研 教 授 佐々木正夫 | 内海博司         |

|                |                 |                 |      |
|----------------|-----------------|-----------------|------|
| 極端条件下の中性子回折・散乱 | 京大原子炉 助教授 川野 真治 | 阪大基礎工 助教授 小野寺昭史 | 川野真治 |
| 臨界集合体実験装置の改造   | 京大原子炉 教 授 神田 啓治 | 東北大理 教 授 平川 直弘  | 神田啓治 |

(平成7年4月7日運営委員会)

### 平成7年度専門研究会採択一覧

| 研 究 会 名                           | 申 請 者            | 開 催 責 任 者        |              |
|-----------------------------------|------------------|------------------|--------------|
|                                   |                  | 所 外              | 所 内          |
| 粒子加速器を用いるパルス炉                     | 京大化研 教 授 井上 信    | 京大化研 教 授 井上 信    | 義家敏正         |
| 短寿命RIによる物性研究                      | 京大原子炉 教 授 川瀬 洋一  | 阪大基礎工 助教授 那須 三郎  | 川瀬洋一<br>前田 豊 |
| アクチニド元素の化学と工学                     | 北大工 教 授 大橋 弘士    | 北大工 教 授 大橋 弘士    | 森山裕文<br>中込良廣 |
| 次世代の原子炉物理学                        | 京大原子炉 助教授 代谷 誠治  | 阪大工 教 授 竹田 敏一    | 代谷誠治         |
| 放射線誘起構造変化                         | 京大原子炉 教 授 松山 奉史  | 北教大函館 教 授 小笠原正明  | 松山奉史         |
| 中性子光学とその研究設備における進展                | 京大原子炉 教 授 宇津呂雄彦  | 九大理 教 授 阿知波紀郎    | 川端祐司         |
| 不安定核の理工学および核計測法                   | 名大工 教 授 河出 清     | 名大工 教 授 河出 清     | 岡野事行         |
| 放射線を利用した生命現象解明への展望                | 放医研 主任研究官 島田 義也  | 放医研 主任研究官 島田 義也  | 内海博司         |
| トリチウムの環境内挙動と線量評価                  | 京大原子炉 助教授 齋藤 真弘  | 大阪薬科大 助教授 木村捷二郎  | 齋藤真弘         |
| 放射性廃棄物管理                          | 京大工 教 授 東 邦夫     | 京大工 教 授 東 邦夫     | 下浦一邦         |
| 中性子束分布測定法の開発と臨界実験                 | 名大工 教 授 森 千鶴夫    | 名大工 教 授 森 千鶴夫    | 小林圭二         |
| 環境中微量物質の挙動パラメータ検討                 | 京大原子炉 助 手 福井 正美  | 信州大教養 教 授 藤縄 克之  | 福井正美         |
| 核分裂研究のフロンティア基礎と応用                 | 東京都立大理 教 授 中原 弘道 | 東京都立大理 教 授 中原 弘道 | 中込良博         |
| トロンとその娘核種の性状と挙動                   | 岐阜医療短大 教 授 下 道国  | 岐阜医療短大 教 授 下 道国  | 辻本 忠         |
| 中性子線残留内部応力測定                      | 京大原子炉 助 手 小野 正義  | 京大工 教 授 落合庄治郎    | 小野正義         |
| ホウ素化合物の化学と <sup>10</sup> B中性子捕捉療法 | 東北大理 教 授 山本 嘉則   | 東北大理 教 授 山本 嘉則   | 北岡祥伯         |

(平成7年4月7日運営委員会)

#### 4. 平成7年度臨界集合体実験装置

##### 共同利用研究の審査結果

臨界集合体実験装置共同利用委員会において申請のあった10件について審査の結果、全件の採択となりました。

平成7年度臨界集合体実験装置共同利用採択一覧表

| 申請者・協力者  |        |     | 実験課題                               | 区分 |
|----------|--------|-----|------------------------------------|----|
| 氏名       | 所属・職名  |     |                                    |    |
| 竹田 敏一    | 阪大・工   | 教授  | 原子炉出力振動に関する基礎実験<br>—中性子束分布測定—      | 共同 |
| 相沢 乙彦    | 武工大・原研 | ”   |                                    |    |
| 橋本 憲吾    | 近大・原研  | 講師  |                                    |    |
| 山本 淳治    | 摂南大・工  | 助教授 |                                    |    |
| 北田 孝典    | 阪大・工   | 助手  |                                    |    |
| 菅原 雅敏    | ”      | 院生  |                                    |    |
| 加藤 芳樹    | ”      | ”   |                                    |    |
| 出海 周     | 武工大・工  | ”   |                                    |    |
| 古谷 賢     | ”      | ”   |                                    |    |
| 代谷 誠治    | 原子炉    | 助教授 |                                    |    |
| 宇根崎博信    | 原子炉    | 助手  |                                    |    |
| 相沢 乙彦    | 武工大・原研 | 教授  | 原子炉出力振動に関する基礎実験<br>—ボイド反応度測定—      | 共同 |
| 竹田 敏一    | 阪大・工   | ”   |                                    |    |
| 代谷 誠治    | 原子炉    | 助教授 |                                    |    |
| 橋本 憲吾    | 近大・原研  | 講師  |                                    |    |
| 山本 淳治    | 摂南大・工  | 助教授 |                                    |    |
| 宇根崎博信    | 原子炉    | 助手  |                                    |    |
| 北田 孝典    | 阪大・工   | ”   |                                    |    |
| 菅原 雅敏    | ”      | 院生  |                                    |    |
| 出海 周     | 武工大・工  | ”   |                                    |    |
| 古谷 賢     | ”      | ”   |                                    |    |
| 林 脩平     | 立教大・原研 | 助教授 | トリウム転換ハイブリッド炉の基礎研究                 | 共同 |
| 木村 逸郎    | 京大・工   | 教授  |                                    |    |
| 金澤 哲     | ”      | 助手  |                                    |    |
| 神野 郁夫    | ”      | ”   |                                    |    |
| 市原 千博    | 原子炉    | ”   |                                    |    |
| 小林 圭二    | ”      | ”   |                                    |    |
| 中村 博     | ”      | 技官  |                                    |    |
| T.K.BASU | 立教大・原研 | 研究員 |                                    |    |
| 森 千鶴夫    | 名大・工   | 教授  | 高分解能位置検出器を用いた炉心<br>内中性子束分布の高精度迅速測定 | 共同 |
| 瓜谷 章     | ”      | 助手  |                                    |    |
| 柳田 勝男    | ”      | 技官  |                                    |    |
| 竹中 康人    | ”      | 院生  |                                    |    |
| 三戸祐一郎    | ”      | ”   |                                    |    |
| 影山 一己    | ”      | ”   |                                    |    |
| 小林 圭二    | 原子炉    | 助手  |                                    |    |
| 市原 千博    | ”      | ”   |                                    |    |
| 代谷 誠治    | ”      | 助教授 |                                    |    |

| 申請者・協力者 |           |     |                                | 実 験 課 題 | 区 分 |
|---------|-----------|-----|--------------------------------|---------|-----|
| 氏 名     | 所 属 ・ 職 名 |     |                                |         |     |
| 山根 義宏   | 名大・工      | 助教授 | 位置検出型比例計数管を用いた固有値間隔の測定         | 共同      |     |
| 瓜谷 章    | "         | 助 手 |                                |         |     |
| 竹本 吉成   | "         | 院 生 |                                |         |     |
| 免取 学    | "         | "   |                                |         |     |
| 石谷 和己   | "         | "   |                                |         |     |
| 岡村 信生   | "         | "   |                                |         |     |
| 代谷 誠治   | 原子炉       | 助教授 |                                |         |     |
| 宇根崎博信   | "         | 助 手 | 制御棒による中性子束歪み量の位置検出型比例計数管を用いた測定 | 共同      |     |
| 三澤 毅    | 名大・工      | 助 手 |                                |         |     |
| 瓜谷 章    | "         | "   |                                |         |     |
| 吉井 貴    | "         | 院 生 |                                |         |     |
| 石谷 和己   | "         | "   |                                |         |     |
| 下 哲治    | "         | "   |                                |         |     |
| 代谷 誠治   | 原子炉       | 助教授 |                                |         |     |
| 宇根崎博信   | "         | 助 手 | H/U比の小さいトリウム (Th) 含有炉心の臨界実験    | 一般      |     |
| 工藤 和彦   | 九大・工      | 教 授 |                                |         |     |
| 田中 純一   | "         | 技 官 |                                |         |     |
| 西尾 浩紀   | "         | 院 生 |                                |         |     |
| 三好 勝正   | "         | "   |                                |         |     |
| 鶴田 義昭   | "         | "   |                                |         |     |
| 野瀬 正一   | "         | "   |                                |         |     |
| 牟田 隆司   | "         | "   | 重水反射体内のアクチニド核の反応率分布の測定         | 共同      |     |
| 岩崎 智彦   | 東北大・工     | 助 手 |                                |         |     |
| 平川 直弘   | "         | 教 授 |                                |         |     |
| 作屋 義昌   | "         | 院 生 |                                |         |     |
| 堀内 敏光   | "         | "   |                                |         |     |
| 茨木 正信   | "         | "   |                                |         |     |
| 林 正俊    | 原子炉       | 助 手 |                                |         |     |
| 代谷 誠治   | "         | 助教授 | 炉心内中性子スペクトル測定の研究               | 共同      |     |
| 阪本 重康   | 東海大・工     | 教 授 |                                |         |     |
| 生沼 亮二   | "         | 院 生 |                                |         |     |
| 村崎 穰    | "         | "   |                                |         |     |
| 大川 剛    | "         | "   |                                |         |     |
| 湯田 琢磨   | "         | "   |                                |         |     |
| 代谷 誠治   | 原子炉       | 助教授 |                                |         |     |
| 小林 圭二   | "         | 助 手 | 原子炉出力振動に関する基礎実験—結合係数の測定—       | 共同      |     |
| 橋本 憲吾   | 近大・原研     | 講 師 |                                |         |     |
| 竹田 敏一   | 阪大・工      | 教 授 |                                |         |     |
| 相沢 乙彦   | 武工大・原研    | "   |                                |         |     |
| 山本 淳治   | 摂南大・工     | 助教授 |                                |         |     |
| 北田 孝典   | 阪大・工      | 助 手 |                                |         |     |
| 加藤 芳樹   | "         | 院 生 |                                |         |     |
| 菅原 雅敏   | "         | "   |                                |         |     |
| 出海 周    | 武工大・工     | "   |                                |         |     |
| 古谷 賢    | "         | "   |                                |         |     |
| 代谷 誠治   | 原子炉       | 助教授 |                                |         |     |
| 宇根崎博信   | "         | 助 手 |                                |         |     |

(平成7年2月23日臨界集合体実験装置共同利用委員会)

## 5. 平成6年度原子炉実験所将来計画短期研究会報告

### プ ロ グ ラ ム

日 時：平成7年3月24日(金) 13:30～17:10

場 所：京都大学原子炉実験所 事務棟会議室

出席者：所外16名、所内30名

- 1) 開会挨拶と経過報告：実験所の整備
- 2) 安全管理体制
- 3) 実験所運営の見直し

—— 休 憩 —— (14:50～15:00)

- 4) 研究分野の展望
- 5) 中核的研究機関支援プログラム
- 6) 閉会挨拶

議題：

#### 1) 開会挨拶と経過報告

西原所長より実験所の改組に関し、平成7年度予算案が国会を通過した旨の報告とその概要についての説明があった。原子炉の安全確保、客員部門が核エネルギー基礎部門に入った経過、及び技術室問題等に言及し、最後に今後組織を活力あるものとするために、より良い共同利用をする場を作って欲しいとの要望がなされた。

#### 2) 安全管理体制

藤田教授より安全管理体制に関する最近の実験所の動き、特に原子炉施設等に関する安全管理組織の見直しと改革について以下の4項目についての説明があった。

①核燃料安全管理体制の整備、②安全管理業務の技官への移行、③実験設備管理部の設置、④研究部門改組。

〔質問〕技官の補充ができないのはなぜか。

———定員削減

〔コメント〕適正な人員配置になっているかを知るために、教官、技官及び事務官の数に関するデータを出して欲しい。

#### 3) 実験所運営の見直し

現在、松山教授が中心となって検討を進めている改組に伴う実験所運営の見直し案について説明があった。見直しに当たっては以下の点が考慮されている。

- 改組に伴って必要となる見直しを優先し、抜本的見直しは後日とすること。
- 官制上の機関については、名称も含めて規定の見直しはしないこと。
- 外部から評価、助言を受ける機関を設けること。
- 他の共同利用研究所の運営体制を参考にし、一般的な運営方法を取り入れること。

また今までに検討された主な点は以下の通りである。

- 運営委員会を全機能化し、審議会の機能をここに移すこと。
- 新しい運営委員会の適正規模。
- 新しい運営委員会には研究計画専門部会、人事選考委員会、共同利用研究部会等の下部組織を設けて機能充実を図ること。
- 協議員会の構成、役割はほぼ現状通りとすること。
- 所長を補佐するための機関として、商議室の設置。
- 外部から評価、助言を受ける評議員会の設置。
- 会議体の大部分は代表制で運営。

〔コメント〕利用者グループの意見、及びその代表が出ている現運営委員会の意見を尊重して欲しい。

#### 4) 研究分野の展望

6 研究部門2施設について各々の部門・施設より、その概要について説明があった。

- 藤田教授より原子炉安全管理部門の各分野、研究炉管理、核物質管理、放射性廃棄物管理、放射線管理及び同位体製造管理の管理内容と研究内容について説明があった。
- 中性子科学部門の3分野、中性子物性、冷中性子理工学及び中性子制御について宇津呂教授より各々の分野の研究の紹介と将来計画について説明があった。
- 核エネルギー基礎部門の核変換システム、極限熱輸送及び材料照射効果の各分野の研究内容並びに客員の量子ビームシステム分野の設置目的等について義家教授より説明があった。
- バックエンド工学部門の放射能環境動態及び核プロセス化学の各分野については、森山教授から核燃料サイクルのバックエンドである旨とそれらの研究分野で目指すものについて説明があった。

〔質問〕専用の同位体分離器を実験所で持つ予定か。

——数年内では無理であるが何処かで持つことは必要。

- 応用原子核科学部門の核放射線計測、原子核物性及び粒子線物性の3分野については岡野教授と前田教授により具体的な研究内容について説明があった。

〔質問〕ライナックは地震で大丈夫だったか。

——特に問題ない。

- 放射線生命科学部門の3分野、粒子線生物学、同位体利用及び放射線医学物理学では、いかにして原子炉の放射線と生命の関わりに取り組むかの説明が内海教授よりあった。
- 原子炉応用センターの原子炉応用分野については、社会と連携した研究内容、原子炉の応用、サービス及び教育を含む業務内容、並びに管理内容について藤田教授より説明があった。



- 原子炉医療基盤研究施設粒子線腫瘍学分野では、小野教授より臨床に近いところでの照射効果の研究を推進するとの説明と最近の成果の紹介があった。

#### 5) 中核的研究機関支援プログラム

前田教授より、文部省が来年度から開始する、卓越した研究拠点の形成に係わる事業は、①大学共同利用機関、共同利用の大学付置研究所及び全国共同利用施設を対象とした「中核的研究機関支援プログラム」、及び②特定の研究分野における中核的な研究拠点として発展する可能性を有する優れた研究者組織を中心とした「中核的研究拠点形成プログラム」の両事業を実施するための経費であり、それに対する実験所の対応について説明があった。

#### 6) 閉会挨拶

西原所長より、「自分たちが出した課題の答えを自分たちで書く」という表現で、今後、より一層の成果を出して欲しいとの要望と、研究会参加者に謝辞が述べられて閉会した。

## 6. 平成7年度の一般公開について

平成7年度の一般公開を去る4月8日(土)午後1時から4時まで実施した。当日は好天に恵まれ、所内の桜も満開で一般公開にふさわしい日和であった。今年度は行事の周知に努め、新聞紙上にも公開の案内が掲載されたが、来訪者は昨年をやや下回り114名に止まった。今回は阪神大震災のこともあり、兵庫県南部地震と実験所におけるこの方面の研究、

京大炉の安全性についての説明パネルを新たに作成、展示した。臨界集合体棟、原子炉室、ホットラボを公開し、また外装工事中の廃棄物処理棟も希望する来訪者に公開した。設営、受付や案内に当たった所員は30数名に上った。なお、KTV、YTVなど在阪のテレビ局からの取材があった。

(学術公開委員会)

## 7. 原子炉実験所の平成6年度出版物について

原子炉実験所の英文の共同利用研究報告書を中心に編集された『KURRI Progress Report 1993』等の出版物が刊行されております。

内容は下記のとおりです。入手御希望の方は下記宛御請求下さい。

〔請求先〕

〒590-04

大阪府泉南郡熊取町野田

京都大学原子炉実験所

出版委員会宛

出版委員会

### 1. 『KURRI Progress Report 1993』内容目次概略

#### I. RESEARCH ACTIVITIES

1. Slow Neutron Physics and Neutron Scattering
2. Nuclear Physics and Nuclear Chemistry
3. Reactor Physics and Reactor Engineering
4. Material Science and Radiation Effects
5. Geochemistry and Environmental Science
6. Life Science and Medical Science
7. Neutron Capture Therapy
8. Neutron Radiography and Radiation Application
9. Radioactive Waste Management and Health Physics

#### II. OPERATION AND DEVELOPMENT OF FACILITIES

- II.1. Kyoto University Reactor (KUR) and Experimental Facilities in KUR
- II.2. Other Facilities
- II.3. Radiation Protection and Monitoring
- II.4. Radioactive Waste Management

#### III. PUBLICATIONS (APRIL 1993 — MARCH 1994)

#### IV. MEETINGS AND SEMINARS

#### V. BOARDS AND PERSONNEL

## 2. ANNUAL REPORTS Vol.27 の内容目次

### Special Contribution

- In Prospect, and Not in Retrospect..... *H. Nishihara* (i)  
 In Celebration of the 30th Anniversary of the Research Reactor Institute  
 ..... *S. Okamura* (iii)  
 Trusting the KURRI Staff with the Future..... *T. Shibata* (v)

### CONTENTS

|                                                                                                                                                                                                                                                                   |     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| Ultracold Neutron Spectra Produced by an Upgraded Supermirror Turbine<br>..... <i>M. Utsuro, Y. Kawabata and K. Okumura</i>                                                                                                                                       | 1   |
| Application of a Double Reflection Multilayer Monochromator to Small-Angle<br>Cold Neutron Scattering<br>..... <i>M. Sugiyama, T. Kawai, T. Ebisawa, S. Tasaki and Yu. Maeda</i>                                                                                  | 12  |
| Position Sensitive Detectors for Small-Angle Neutron Scattering<br>..... <i>M. Sugiyama, S. Uehara and Yu. Maeda</i>                                                                                                                                              | 22  |
| Performance of a Microstrip Proportional Counter..... <i>Y. Hayakawa and Yu. Maeda</i>                                                                                                                                                                            | 34  |
| Physical Dose Evaluation on Gadolinium Neutron Capture Therapy<br>..... <i>K. Kagehira, Y. Sakurai, T. Kobayashi, K. Kanda and Y. Akine</i>                                                                                                                       | 42  |
| Analysis of Critical Experiments in the KUCA C-Core by Using JENDL-3.1<br>Library..... <i>S. Shiroya, S. K. Dikharja, H. Unesaki and K. Kanda</i>                                                                                                                 | 57  |
| Measurement of Subcriticality by the Feynman- $\alpha$ Method at the KUCA<br>..... <i>T. Misawa, S. Shiroya and Y. Yamane</i>                                                                                                                                     | 65  |
| Study on Homogeneous Recycling of Minor Actinides in MOX Fueled PWRs<br>..... <i>J. Kimura, S. Shiroya, K. Kanda, M. Delpech and P. Bergeonau</i>                                                                                                                 | 79  |
| Expansion of Thermodynamic Model of Solute Permeation through Reverse<br>Osmosis Membrane..... <i>K. Nishimaki and A. Koyama</i>                                                                                                                                  | 92  |
| Hyperfine Magnetic Fields at Rare-Earth Site in Sm-Co Permanent Magnets<br>with a TDPAC Method..... <i>Ni Xinbo, Y. Kawase and S. Uehara</i>                                                                                                                      | 103 |
| Oxidation States of $^{32}\text{P}$ - and $^{31}\text{P}$ -Atoms of Reactor-Irradiated Phosphorus<br>Oxoacids in Aqueous Solutions: Influence of Irradiation Conditions<br>..... <i>M. Kobayashi, J. Takada, Y. Kitaoka, K. Kawamoto and Y. Kiso</i>              | 108 |
| Evaluation of Calcium, Magnesium, Zinc, Aluminum and Manganese Deposition<br>in Bones and CNS of Rats Fed Calcium-Deficient Diets<br>..... <i>M. Yasui, K. Ota, K. Sasajima and S. Iwata</i>                                                                      | 117 |
| <b>Review</b>                                                                                                                                                                                                                                                     |     |
| Single Crystal Neutron Diffraction Studies on Ferroelectric Materials — A<br>Review on Neutron Diffraction Works Made Using the 4-Circle Diffractometer<br>at KUR —..... <i>Y. Iwata, S. Mitani and I. Shibuya</i>                                                | 128 |
| Reminiscences of Progress and Achievements During the Past Thirty Years of<br>the Slow Neutron Physics and Engineering Division<br>..... <i>T. Akiyoshi, M. Ono, T. Ebisawa, T. Kawai and S. Tasaki</i>                                                           | 160 |
| <b>Short Notes</b>                                                                                                                                                                                                                                                |     |
| Characteristics of CN3 Neutron Guide Tube at KUR..... <i>M. Hino, T. Akiyoshi,<br/>M. Sugiyama, N. Achiwa, Y. Eguchi, T. Ebisawa,<br/>S. Tasaki, T. Kawai, K. Yoneda and T. Kobayashi</i>                                                                         | 196 |
| Small-Angle Neutron Scattering Study of Collagen Using a Contrast Variation<br>Method..... <i>M. Sugiyama, Y. Hayakawa and Yu. Maeda</i>                                                                                                                          | 205 |
| Measurement of Gold Reaction Rate in the Thermal Neutron Field of Heavy<br>Water Facility at the KUR<br>..... <i>T. Misawa, K. Fushiki, S. Shiroya and T. Kobayashi</i>                                                                                           | 212 |
| Spin Assignment of the 1049.3 keV Level in $^{177}\text{Lu}$<br>..... <i>S. Yamada, T. Sharshar, K. Aoki and K. Okano</i>                                                                                                                                         | 218 |
| Studies of the Complexation of the Hydroxyboryl Compounds by Zone Electrophoresis:<br>Electrophoretic Behavior of p-Boronophenylalanine in Various Carboxylic<br>Acid Supporting Solutions.<br>..... <i>Y. Kitaoka, M. Kobayashi, K. Kawamoto and I. Ichimoto</i> | 224 |
| Determination of Trace Elements in a Silicon Single Crystal(II)..... <i>T. Takeuchi,<br/>Y. Nakano, T. Fukuda, I. Hirai, A. Osawa and N. Toyokura</i>                                                                                                             | 229 |

(Continued)

# Preliminary Notes

|                                                                                                                       |                                                                                        |     |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| Instrument for Polarizing Cold Neutrons with a Wavelength of 9 Å.....                                                 | T. Kawai,<br>S. Tasaki, T. Ebisawa, Y. Eguchi, M. Hino, N. Achiwa and H. Shimizu       | 235 |
| Measurement of Void Profile in a Simulated Subchannel of a Tight Lattice Core<br>with Use of Neutron Radiography..... | K. Mishima,<br>T. Hibiki, K. Yoneda, S. Fujine, K. Kanda, H. Nishihara and N. M. Chung | 245 |
| Abstracts.....                                                                                                        |                                                                                        | 254 |

## 3. テクニカルレポート (TR) の内容目次

|                                                         |                     |
|---------------------------------------------------------|---------------------|
| 「短寿命RIによる物性研究」専門研究会報告 .....                             | 1994...KURRI-TR-386 |
| 平成5年度「核分裂の理工学」専門研究会報告書 .....                            | 1994...KURRI-TR-387 |
| 多層膜中性子干渉計の改良と応用 (I) .....                               | 1994...KURRI-TR-388 |
| ワークショップ「研究炉 (KUR) の放射線防護の最適化」報告書 .....                  | 1994...KURRI-TR-389 |
| 中性子捕捉療法の改善と適応拡大のための基礎的臨床的研究 .....                       | 1994...KURRI-TR-390 |
| 第2回 原子炉・放射線技術研修会 報告書 .....                              | 1994...KURRI-TR-391 |
| 「KUR重水熱中性子設備の改造による安全性および性能の改善」<br>平成5年度ワークショップ報告書 ..... | 1994...KURRI-TR-392 |
| 「原子炉による中性子放射化分析の基礎および応用」専門研究会報告 .....                   | 1994...KURRI-TR-393 |
| 放射線誘起構造変化 (V) .....                                     | 1994...KURRI-TR-394 |
| 京都大学原子炉実験所共同利用研究報告抄録 平成5年度 .....                        | 1994...KURRI-TR-395 |
| 「水素結合型強誘電体の物性と中性子回折」専門研究会報告書 ...                        | 1994...KURRI-TR-396 |
| 放射線管理記録 29 (1993年度) .....                               | 1994...KURRI-TR-397 |
| 「一貫した核燃料サイクルを目指す原子力研究」専門研究会平成4年度報告書 .....               | 1994...KURRI-TR-398 |
| 「一貫した核燃料サイクルを目指す原子力研究」専門研究会平成5年度報告書 .....               | 1994...KURRI-TR-399 |

## 8. 外来者証の様式変更について

平成7年度より外来者証の様式が変更されました。主な変更点は、従来、来所のつど外来者証を発行していましたが、今回、様式を改め、一年度内に1枚発行し当該年度中使用するようにしたこと、また、被曝線量の欄を新たに設け、ポケット線量計返却時に各自で被曝線量を確認し記入するようにしたこと等です。特に、今回、一年度期間中使用することになりましたので、破損、紛失等のないよう大切に取扱い、退所時には必ず守衛所に返却願います。

## 9. 外国人研究員の受入れについて

| 氏<br>( 所 属 ) 名                            | 国 籍  | 研 究 題 目             | 受 入 期 間                 | 備 考 |
|-------------------------------------------|------|---------------------|-------------------------|-----|
| Giuseppe Zummo<br>(イタリア新エネルギー<br>研究所副研究員) | イタリヤ | サブクール沸騰<br>限界熱流束の研究 | 平成 7. 5. 1<br>～ 7.10.31 |     |

## 10. 外国人研究者講演会報告

原子炉利用研究者グループの主催により、下記のとおり講演会が行われました。

平成7年4月13日開催

“New Directions of Physical Metallurgy in Germany ”

Prof. Dr. Ulrich Gonser

(Universität des Saarlandes, Saarbrücken, Deutschland)

## 11. 日本原子力学会賞の受賞について

この度、当実験所 福井正美助手が第27回（平成6年度）日本原子力学会賞論文賞を受賞されました。その概要は下記のとおりです。

記

### 研究炉施設近傍における放出放射性核種の 挙動とモデル化に関する研究

(京都大学) 福 井 正 美

主な協力者 (京大炉) 林 正俊, 義本 孝明, 岡本 賢一

放出源近傍における気・液中放射性物質の挙動解明とそのモデル化は、被曝線量の低減化および炉の安全性などを評価するために重要な研究課題である。受賞者はこ

のような観点から、現場を主体とした以下のような調査・研究を実施した。  
平常時のKUR空気中の放射性核種を天然のラドン系

列核種と総合的に比較・評価してALARAの観点から $^{41}\text{Ar}$ の放出低減を実施したことはすでに報告した<sup>(1)</sup>。他方、異常時の放射能動態としては、1987年4月以降にKUR炉室内のプール水中HTO濃度上昇が明らかになったことから、受賞者は、炉室の気・水中や黒鉛中回収凝縮水のモニタリングにより、濃度・賦存量の全容を明らかにすると共に<sup>(2)</sup>、重水漏洩を想定した気・水中HTO移行・挙動をモデル化し、それを実証した<sup>(3)</sup>。次いで、長期モニタリングによりプール水やコンクリート中HTOの低減と環境回復状況を明らかにすると共に、構築した移行モデルの再実証、コンクリート中HTO吸収量評価なども実施した<sup>(4)</sup>。さらに、この調査研究において開発したシャーレ水盤を用いる簡便な気中HTOモニタリング法を、その後KUCAの加速器に用いられているターゲットからのHTO検出にも適用して作業者の無駄な被曝を低減することに役立てた<sup>(5)</sup>。施設外ではあるが、この重水漏洩に伴って発生した排水系統HTOのトレーサビリティに着目してその環境水中挙動を明らかにした<sup>(6)</sup>。

KUR 1 次冷却水中核種の動態は、イオン交換カラム表面に設置されているNaI(Tl)水モニタの特性と関連させて検討した。その結果、(1) カラム樹脂への平衡吸着量は水中で最高濃度を示す $^{27}\text{Mg}$ よりも $^{24}\text{Na}$ が60倍程度多く、支配的であること、(2)  $^{24}\text{Na}$ はカラム樹脂の表層10 cm以内に不可逆的に吸着され、そのバンドは炉停止

後もモニタ方向に流下しないこと、(3) したがってモニタの指示値は樹脂表層に吸着されている $^{24}\text{Na}$ の放射能量にตอบสนองしていること、などを明らかにした<sup>(6)</sup>。これらの情報に基づいて、(4) 炉水中 $^{24}\text{Na}$ 濃度の増加・減少を時間の関数としてモデル化し、この濃度変化式を境界条件としたカラム樹脂への吸着量を予測する理論式を誘導してNaIモニタ指示値と比較し、きわめて良好な一致をみた<sup>(7)</sup>。したがって、燃料破損がない正常な変化パターンを予測できることから、それからの増加分を燃料の異常に起因するものとして、指示値が警報設定値に到達する以前に早く検知できることを明らかにすることにより、モニタの意義・役割を明確にした<sup>(8)</sup>。

#### (主要参考資料)

- (1) 福井正美, 義本孝明, 山崎敬三, 斉藤真弘, 岡本賢一: 原子力誌, 31(12), 1393~1401 (1989).
- (2) 福井正美, 林 正俊: 同上, 34(2), 153~160 (1992).
- (3) FUKUI, M.: *Health Phys.*, 62(2), 144~154 (1992).
- (4) FUKUI, M.: *Radiat. Prot. Dosimet.*, 48(2), 169~178 (1993).
- (5) 福井正美: 放出源近傍におけるトリチウムの環境動態, 京大炉第28回学術講演会報文集, pp. 17~30 (1994).
- (6) FUKUI, M., YOSHIMOTO, T., OKAMOTO, K., MINAMI, K.: *J. Nucl. Sci. Technol.*, 31(6), 582~589 (1994).
- (7) FUKUI, M.: *Health Phys.*, 67(6), 641~649 (1994).
- (8) 福井正美: 一次冷却材浄化系における放射性核種の挙動とイオン交換樹脂塔燃料破損検出モニタの役割, 京大炉第29回学術講演会報文集, pp. 31~40 (1995).

## 12. 教官公募について

原子炉実験所では下記のとおり、教官の公募を行っております。詳しくは、原子炉実験所総務課庶務掛気付人事委員会 (TEL 0724-52-0901 内線 2112) まで照会下さい。

なお、公募締切りは、平成7年6月30日 (金) 午後5時 (必着) となっております。

### 記

京都大学原子炉実験所は、原子炉による実験及びこれに関連する研究を行うことを目的として設置された全国大学等の共同利用研究所です。当原子炉実験所では、研究炉KURの高度な利用を中心とした研究を行うため、平成7年4月より研究組織の再編成が認められ、6研究部門 (19研究分野・1客員分野)、2研究施設の構成で、より活力のある研究所として生まれ変わるようになりました。

今回の公募は、新しい研究体制のもとに、当原子炉実験所をより発展させるために、各研究分野で指導的役割を果たしていただける人を求めるものです。

募 集 要 項

I. 募集人員等

| 区分 | 職名及び人数     | 研究部門<br>(研究分野)                | 職 務 の 内 容                                                                                                                  | 専門とする学術上の資格に加えて必要とされる資格 |
|----|------------|-------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|
| A  | 教 授<br>1 名 | 原子炉安全管理<br>研究部門<br>(同位体製造管理)  | 放射性同位体の製造・利用に関する研究及びその指導並びに研究用原子炉に付設された放射性同位元素等取扱施設・実験設備等の安全管理業務の統括                                                        | 放射線取扱主任者免状<br>(第1種)     |
| B  | 教 授<br>1 名 | 中性子科学研究部門<br>(中性子制御)          | 中性子の反射鏡、干渉計、回折計、極小角散乱装置、偏極装置、又はX線実験装置等の技法を用いた長波長中性子の精密制御に関する技術開発及びこれを応用した研究とその指導                                           | なし                      |
| C  | 教 授<br>1 名 | 核エネルギー基礎<br>研究部門<br>(核変換システム) | 次世代の核エネルギー発生方式の基礎研究として、中性子輸送及び核変換反応に基づく新たなシステムの核特性に関する研究とその指導並びに臨界集合体実験装置等関連する実験設備の利用及び保守管理業務の統括                           | なし                      |
| D  | 教 授<br>1 名 | 核エネルギー基礎<br>研究部門<br>(極限熱輸送)   | 熱に変換された核エネルギーの安全かつ効率的な利用を目的として、超高熱負荷時の除熱など想定される種々の極端条件下における熱輸送現象及び相変化を含む流動現象や流体機能に関する実験的・理論的研究とその指導並びに関連する実験設備の保守管理業務の統括   | なし                      |
| E  | 教 授<br>1 名 | 放射線生命科学<br>研究部門<br>(放射線医学物理)  | 放射線生物作用に関する基礎過程(例えば放射線の物質に対するエネルギー付与など)の研究を基盤としたマイクロドジメトリー、放射線照射効果、線量測定・評価の研究、又は放射線・粒子線による高度医療を目的とした医療用照射場の開発研究及びそれらに関する指導 | なし                      |
| F  | 助教授<br>1 名 | バックエンド工学<br>研究部門<br>(核プロセス化学) | バックエンド工学、特に核燃料のリサイクル及び超ウラン元素の管理に関連する化学的研究とその指導並びに関連する実験設備の保守管理                                                             | なし                      |
| G  | 助教授<br>1 名 | 応用原子核科学<br>研究部門<br>(核放射線計測)   | 原子炉で生成される中性子過剰核の核分光学的研究及び原子炉利用研究のための放射線計測法の開発研究とそれらの指導並びに関連する実験設備の保守管理                                                     | なし                      |

### 13. 原子炉実験所審議員名簿

平成7年4月1日現在

(順序不同)

|          |               |         |
|----------|---------------|---------|
| 東京大学教授   | (原子核研究所)      | 柴田徳思    |
| 東京工業大学教授 | (大学院総合理工学研究科) | 井上晃     |
| 東京大学教授   | (工 学 部)       | 石 樽 顯 吉 |
| 大阪大学教授   | (医 学 部)       | 井 上 俊 彦 |
| 同        | (工 学 部)       | 宮 崎 慶 次 |
| 同        | (基礎工学部)       | 葛 西 道 生 |
| 同        | (理 学 部)       | 鹿 取 謙 二 |
| 九州大学教授   | (応用力学研究所)     | 蔵 元 英 一 |
| 京都大学教授   | (医 学 部)       | 小 西 淳 二 |
| 同        | (工 学 部)       | 芹 澤 昭 示 |
| 同        | (理 学 部)       | 政 池 明   |
| 同        | (化学研究所)       | 井 上 信   |
| 同        | (原子炉実験所)      | 西 原 英 晃 |
| 同        | ( 同 )         | 藤 田 薫 顯 |
| 同        | ( 同 )         | 岡 野 事 行 |
| 同        | ( 同 )         | 宇津呂 雄 彦 |
| 同        | ( 同 )         | 前 田 豊   |
| 同        | ( 同 )         | 小 野 公 二 |
| 同        | ( 同 )         | 内 海 博 司 |
| 同        | ( 同 )         | 義 家 敏 正 |
| 同        | ( 同 )         | 川 瀬 洋 一 |
| 同        | ( 同 )         | 森 山 裕 丈 |
| 同        | ( 同 )         | 岩 田 豊   |
| 同        | ( 同 )         | 神 田 啓 治 |
| 同        | ( 同 )         | 松 山 奉 史 |



# 14. 京都大学原子炉実験所運営委員会委員名簿

平成7年4月1日現在

(順序不同)

|            |                 |             |         |
|------------|-----------------|-------------|---------|
| 北海道大学      | 教 授             | (工 学 部)     | 成 田 正 邦 |
| 新潟大学       | 同               | (理 学 部)     | 橋 本 哲 夫 |
| 東京大学       | 助 教 授           | (医 学 部)     | 草 間 朋 子 |
| 東京工業大学     | 教 授             | (原子炉工学研究所)  | 藤 井 靖 彦 |
| 名古屋大学      | 助 教 授           | (工 学 部)     | 山 本 洋   |
| 大阪大学       | 同               | ( 同 )       | 西 澤 嘉寿成 |
| 同          | 同               | (理 学 部)     | 斎 藤 直   |
| 鳴門教育大学     | 教 授             | (学校教育学部)    | 跡 部 紘 三 |
| 奈良県立医科大学   | 同               | (医 学 部)     | 大 西 武 雄 |
| 姫路工業大学     | 同               | (理 学 部)     | 小 原 孝 夫 |
| 九州大学       | 教 授             | (工 学 部)     | 工 藤 和 彦 |
| 放射線医学総合研究所 | 障 害 臨 床 研 究 部 長 | (障害臨床研究部)   | 安 藤 興 一 |
| 東京大学       | 助 教 授           | (物 性 研 究 所) | 吉 澤 英 樹 |
| 理化学研究所     | 主任研究員           | (核化学研究室)    | 安 部 文 敏 |
| 京都大学       | 事務局長            |             | 中 林 勝 男 |
| 同          | 教 授             | (原子炉実験所)    | 藤 田 薫 顕 |
| 同          | 同               | ( 同 )       | 森 山 裕 丈 |
| 同          | 同               | ( 同 )       | 川 瀬 洋 一 |
| 同          | 同               | ( 同 )       | 小 野 公 二 |
| 同          | 同               | ( 同 )       | 内 海 博 司 |
| 同          | 同               | ( 同 )       | 義 家 敏 正 |
| 同          | 同               | ( 同 )       | 岩 田 豊   |
| 同          | 同               | ( 同 )       | 松 山 奉 史 |
| 同          | 同               | ( 同 )       | 中 込 良 廣 |
| 同          | 同               | ( 同 )       | 代 谷 誠 治 |
| 同          | 同               | ( 同 )       | 下 浦 一 邦 |
| 同          | 同               | ( 同 )       | 松 原 丘   |

# 15. 原子炉実験所各種委員会委員名簿

(順序不同)

## 臨界集合体実験装置共同利用委員会

平成7年4月1日現在

|           |                                |                |     |     |
|-----------|--------------------------------|----------------|-----|-----|
| 東 北 大 学   | 工 学 部                          | 助 教 授          | 馬 場 | 護   |
| 東 京 大 学   | 工 学 部                          | 教 授            | 田 中 | 知   |
| 大 阪 大 学   | 工 学 部                          | 同              | 竹 田 | 敏 一 |
| 名 古 屋 大 学 | 工 学 部                          | 助 教 授          | 山 根 | 義 宏 |
| 九 州 大 学   | 工 学 部                          | 教 授            | 工 藤 | 和 彦 |
| 東 海 大 学   | 工 学 部                          | 同              | 阪 元 | 重 康 |
| 日本原子力研究所  | 東海研究所安全性試験研究<br>センターNUCEF計画推進室 | NUCEF<br>建設室次長 | 竹 下 | 功   |
| 京 都 大 学   | 原子炉実験所                         | 教 授            | 藤 田 | 薫 顕 |
| 同         | 同                              | 同              | 義 家 | 敏 正 |
| 同         | 同                              | 助 教 授          | 代 谷 | 誠 治 |

## 原 子 炉 安 全 委 員 会

平成7年4月2日現在

|     |      |             |     |       |       |
|-----|------|-------------|-----|-------|-------|
| 議 長 | 京都大学 | 原 子 炉 実 験 所 | 所 長 | 前 田   | 豊     |
| 委 員 | 大阪大学 | 工 学 部       | 教 授 | 竹 田   | 敏 一   |
|     | 近畿大学 | 原 子 力 研 究 所 | "   | 森 嶋   | 彌 重   |
|     | 京都大学 | 工 学 部       | "   | 木 村   | 逸 郎   |
|     | "    | 原 子 炉 実 験 所 | "   | 藤 田   | 薫 顕   |
|     | "    | "           | "   | 岡 野   | 事 行   |
|     | "    | "           | "   | 宇 津 呂 | 雄 彦   |
|     | "    | "           | "   | 岩 田   | 豊     |
|     | "    | "           | "   | 森 山   | 裕 丈   |
|     | "    | "           | "   | 神 田   | 啓 治   |
|     | "    | "           | 助教授 | 西 牧   | 研 莊   |
|     | "    | "           | "   | 齋 藤   | 眞 弘   |
|     | "    | "           | "   | 代 谷   | 誠 治   |
|     | "    | "           | "   | 三 島   | 嘉 一 郎 |
|     |      |             | "   | 辻 本   | 忠     |

原子炉実験所原子炉医療委員会

平成7年4月1日現在

|     |          |              |     |      |
|-----|----------|--------------|-----|------|
| 委員長 | 京都大学     | 原子炉実験所       | 教授  | 小野公二 |
| 委員  | 大阪大学     | 医学部医療放射線センター | "   | 井上俊彦 |
|     | 京都大学     | 原子炉実験所       | "   | 内海博司 |
|     | 京都府立医科大学 | 放射線技術科学科     | "   | 稲田哲雄 |
|     | 京都大学     | 医学部          | "   | 今村貞夫 |
|     | "        | 胸部疾患研究所      | "   | 高橋正治 |
|     | 京都府立医科大学 | 医学部          | "   | 上田聖  |
|     | 大阪大学     | 医学部          | 助教授 | 中村仁信 |
|     | 京都大学     | 原子炉実験所       | 教授  | 藤田薫顕 |
|     | "        | "            | 助教授 | 齋藤真弘 |

保健物理委員会

平成7年4月2日現在

|    |        |          |     |       |
|----|--------|----------|-----|-------|
| 議長 | 京都大学   | 原子炉実験所   | 所長  | 前田豊   |
| 委員 | 大阪府立大学 | 先端科学研究所  | 助教授 | 庄野吉彦  |
|    | 京都大学   | 理学部      | 教授  | 西村進   |
|    | "      | 保健管理センター | 所長  | 森下玲児  |
|    | "      | 原子炉実験所   | 教授  | 川瀬洋一  |
|    | "      | "        | "   | 森山裕丈  |
|    | "      | "        | "   | 神田啓治  |
|    | "      | "        | 助教授 | 下浦一邦  |
|    | "      | "        | "   | 齋藤真弘  |
|    | "      | "        | "   | 辻本忠   |
|    | "      | "        | "   | 三島嘉一郎 |
|    | "      | "        | "   | 代谷誠治  |
|    | "      | "        | 講師  | 秋吉恒和  |

## 16. 職員の異動

### 1. 所長交替

平成7年4月2日付け (就任) 前田 豊 (平成9年4月1日まで)  
(退任) 西原 英晃

### 2. 退職

平成7年3月31日限り 核生物学研究部門 助教授 菊池 忠壽  
(停年退職)  
平成7年3月31日付け 経理課用度掛(運転手) 山内 義明  
(定年退職)  
平成7年3月31日付け 経理課用度掛(守衛) 岩崎 土郎  
(定年退職)

### 3. 採用

平成7年4月1日付け 核エネルギー基礎研究部門客員教授(非常勤講師) 安部 文敏  
(理化学研究所主任研究員)  
平成7年4月1日付け 核エネルギー基礎研究部門客員助教授(非常勤講師) 原 見太幹  
(日本原子力研究所東海研究所主任研究員)  
平成7年4月1日付け 核エネルギー基礎研究部門 助手 徐 龍  
平成7年4月1日付け 応用原子核科学研究部門 助手 高橋 俊晴  
平成7年4月1日付け 応用原子核科学研究部門 助手 谷口 秋洋  
平成7年4月1日付け 放射線生命科学研究所部門 教務職員 櫻井 良憲  
平成7年4月1日付け 総務課図書掛員 富岡 達治  
4. 昇任  
平成7年4月1日付け 技術室長 荒木 康丞  
平成7年4月1日付け 事務部長 木村 斐夫  
(東南アジア研究センター事務長より)  
平成7年4月1日付け 総務課庶務掛長 吉田 良博  
(工学部総務課人事掛主任より)

|            |                                    |         |
|------------|------------------------------------|---------|
| 平成7年4月1日付け | 経理課用度掛長<br>(理学部司計掛主任より)            | 北 野 和 勇 |
| 平成7年4月1日付け | 経理課経理掛員<br>(国際日本文化研究センター会計課総務係主任へ) | 池 田 正 憲 |

### 3. 配置換

|            |                                 |         |
|------------|---------------------------------|---------|
| 平成7年4月1日付け | 事務部長<br>(工学部事務部長へ)              | 佐 野 安 宏 |
| 平成7年4月1日付け | 総務課庶務掛長<br>(庶務部国際交流課国際企画掛長へ)    | 麻 田 茂   |
| 平成7年4月1日付け | 経理課用度掛長<br>(農学部用度掛長へ)           | 菅 原 政 和 |
| 平成7年4月1日付け | 総務課図書掛員<br>(基礎物理学研究所会計掛(図書室)へ)  | 澤 谷 正   |
| 平成7年4月1日付け | 経理課経理掛員<br>(医学部附属病院医事課入院掛より)    | 村 上 哲 一 |
| 平成7年4月1日付け | 技術室技官<br>(原子エネルギー研究所原子燃料研究部門より) | 小 椋 正 道 |

### 6. 平成7年度原子炉実験所非常勤講師

|                    |       |         |                         |
|--------------------|-------|---------|-------------------------|
|                    |       |         | 研 究 題 目                 |
| 東北大学工学部            | 助教授   | 近 藤 泰 洋 | 「放射光の発生と遠赤外時間分解分光」      |
| 関西医科大学医学部          | 教 授   | 田 中 敬 正 | 「肺、肝腫瘍に対する中性子捕捉療法の基礎研究」 |
| 日本原子力研究所先端基礎研究センター | 主任研究員 | 吉 田 善 行 | 「アクチノイドの溶液化学」           |

## 17. 委員会メモ

(平成7年2月～平成7年4月)

平成7年

|       |                      |
|-------|----------------------|
| 2月17日 | 審議会・協議会              |
| 22日   | 平成6年度第11回原子炉安全委員会    |
| 23日   | 第88回臨界集合体実験装置共同利用委員会 |

- 3月 2日 平成6年度原子炉応用センター運営審議会  
17日 審議会・協議員会  
20日 平成6年度第12回原子炉安全委員会  
24日 平成6年度第4回保健物理委員会
- 4月 7日 第158回運営委員会  
14日 審議会・協議員会  
28日 平成7年度第1回原子炉安全委員会

## 編 集 後 記

原子炉実験所の整備が認められたことにより、この4月より実験所は新しい体制でスタートすることになりました。所長の交替があり、部門名が変わり、所員の配置換えがあり、運営の見直しにも手をつけ、また、新しい所員や客員教授・助教授を迎え、教官人事をスタートさせ、COEプログラムも走りだし、そのうえ、京大の大学院重点化計画も進行中……といった具合ですが、既に2ヶ月余を過ぎたこの時点でもあらゆることがまだまだ再編途上であって、なおしばらくギクシャクとした状態が続きそうです。意識改革が伴わなければその分余計長引くことにもなるでしょう。

しかしながら、こんな状態をいつまでも続けているわけにはいきません。所期の成果を挙げながら次期将来計画の策定にも着手し、目の前が開けるような計画を出来るだけ早く練りあげなければならないからです。しかもそれを、あと10年もすれば現教官の40名以上がいなくなるという状況のなかで実現しなければならないのです。そして、この将来計画策定こそが10年後の実験所の存続を賭けた最も大切な課題というべきでしょう。そのために所員の果たす役割が第一義的に重要であることは言うまでもありませんが、共同利用研究者の皆様並びに関係の皆様になお一層のお力添えを頂きたく、ご協力・ご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。